

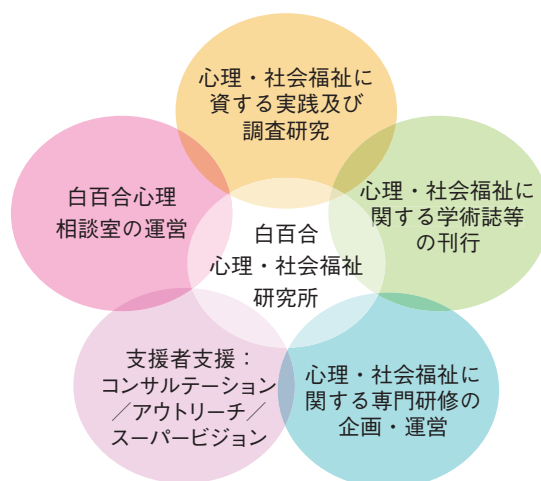
# 白百合心理・社会福祉研究所 令和 6 (2024) 年度活動報告

白百合心理・社会福祉研究所（以下、研究所）は、平成 31 年度以降、「心理・社会福祉に資する実践及び調査研究」「心理相談室の運営」「支援者支援」「心理・社会福祉に関する学術誌等の刊行」「心理・社会福祉に関する専門研修の企画・運営」主要な 5 つの活動を中心に運営されている。

以下、各項目の今年度の活動を報告する。

## I. 心理・社会福祉に資する実践及び調査研究

令和 6 年度、研究所では 6 つの研究プロジェクトが進行している。各プロジェクトの進行状況は、下記の通りである。



白百合心理・社会福祉研究所の運営

### (1) 愛着形成過程の縦断的観察

本プロジェクトでは、生後 3 か月までに入所した子どもの愛着形成の様相の縦断的観察を行い、生後 14 か月になった時点での愛着パターンを調査し、乳児院の子どもの愛着形成の実態を把握し、支援法を模索している。

開始から令和 6 年度までに累計して 11 ケースの SSP (Strange Situation Procedure: ストレンジシチュエーション法) が完了した。令和 6 年度は 6 ケースの縦断的観察を実施し、そのうち 1 ケースが SSP の実施に至った。なお、1 ケースは家庭引き取りにより SSP 実施には至らずに終結し、2 ケースは、里親委託に向けた交流を開始した。

これまでの成果を、青木研究所所長（以下、所長）が International Attachment Conference（7月フランスにて開催）で発表した（Aoki, K., & Kondo-Ikemura, K., The First Strange Situation Procedure Report of Japanese Infants Reared in Baby-home after Birth.）。

## （2）乳児院における入所児アセスメント法の開発

本プロジェクトは、生後12か月以上の子どもが入所した直後の、他者との関係構築の能力をアセスメントし、養育者との関係性支援に生かす方法を検討している。令和6年度は、施設内のデータ収集を3件行った。これまでの成果は、昨年度に引き続き近藤氏のリーダーシップのもととりまとめ、International Attachment Conference（7月フランスにて開催）にて発表した（Kondo-Ikemura, K., & Aoki, K., Development of Maltreated Infants Rescued at 12-18 months old in the Baby-home in Japan.）。

## （3）母子生活支援施設における多分野協働カンファレンス方法の開発

当法人母子生活支援施設白百合パークハイムでは、毎月1回多分野協働のケースカンファレンスを実施されている。カンファレンス内容を充実させ支援の質向上を目的に、ファシリテーターが研究所と協働し、資料フォーマットの改善、実施前後の発表者との打合せや振り返りといった構造の改善を行ってきた。今年度は、資料フォーマットの第1次改変後の影響を職員へインタビューによって調査し、その結果をその後の改善に反映させた。この成果は本誌『子どもの福祉と心理 Vol. 2』（古賀美由紀・麻田萌、多分野協働カンファレンスにおけるケース支援への気づき促進をめぐる考察）にて報告した。

## （4）乳児院におけるビデオフィードバックカンファレンス方法の活用

当法人乳児院白百合ベビーホームでは、養育者や家庭支援専門相談員・里親支援専門相談員らと子どものアタッチメントの育ちを共に見守る体制を構築するため、ビデオを用いたカンファレンスを、様々な場面で活用してきた。

今年度は、入所後カンファレンスを4ケース、育ちの振り返りを4ケース、計7ケースのビデオフィードバックカンファレンスを行った。また、昨年度より養育ケア会議においても、所長の提案により、子どもの育ち、ケースの状況等の検討のためにビデオを活用するようにした。（表I-1）

## （5）乳児保育における表現（アート・読み聞かせ・ダンス）促進

子どもの興味関心・経験の幅を広げる保育環境の構築を目的に、様々な子どもの表現プログラムを取り入れている。

令和6年度は、アートプログラムを11回（12月のアートプログラムは講師の体調不良等で中止）、おはなしの会を11回（8月のおはなしの会は台風のため中止）、ダンスプログラムを11回（9月のダンスプログラムは講師の体調不良等のため中止）実施した。（表I-2）

これらのプログラム講師に保育の質向上委員会で計画した年間遊び計画を伝え、できるだけ普段の遊びとも連携したプログラム構成となるよう講師と連携を図った。また、今後のプログラム改善

表I-1 白百合ベビーホーム カンファレンス実施状況とその内容者

| 入所後カンファレンス        |        |                           |       |                     |                                               |
|-------------------|--------|---------------------------|-------|---------------------|-----------------------------------------------|
| No.               | 日程     | 対象年齢                      | 参加者人数 | カリキュラムへの反映状況        | 内容                                            |
| 1                 | 7月8日   | 1歳10か月                    | 7     | 8月のカリキュラムに反映        | 入所後2か月時の児の理解と今後の養育及びケースの方針について                |
| 2                 | 10月2日  | 1歳10か月                    | 7     | 11月のカリキュラムに反映       | 入所後2か月時の児の理解と今後の養育及びケースの方針について                |
| 3                 | 2月10日  | 1歳10か月                    | 5     | 2月のカリキュラムに反映        | 入所後2か月時の児の理解と今後の養育及びケースの方針について                |
| 4                 | 3月22日  | 1歳7か月                     | 6     | 次年度以降のカリキュラムに反映していく | 入所後3か月時の児の理解と今後の養育及びケースの方針について                |
| 育ちの振り返り           |        |                           |       |                     |                                               |
| 1                 | 4月17日  | 3歳3か月                     | 9     | —                   | 退所児の育ちの振り返りと措置変更先への引き継ぎ                       |
| 2                 | 6月24日  | 4歳8か月                     | 9     | —                   | 退所児の育ちの振り返りと里親への引き継ぎ                          |
| 3                 | 10月16日 | 2歳7か月                     | 11    | —                   | 退所児の育ちの振り返りと里親への引き継ぎ                          |
| 4                 | 10月18日 | 4歳1か月                     | 10    | —                   | 退所児の育ちの振り返りと措置変更先への引き継ぎ                       |
| 5                 | 3月19日  | 3歳1か月                     | 9     | —                   | 退所児の育ちの振り返りと里親への引き継ぎ                          |
| SSPフィードバックカンファレンス |        |                           |       |                     |                                               |
| 1                 | 3月26日  | 1歳8か月                     | 8     | —                   | 愛着形成の様子の振り返りと今後の関わり方について                      |
| 養育ケア会議            |        |                           |       |                     |                                               |
| 1                 | 5月27日  | 3歳2か月                     | 14    | 7月のカリキュラムに継続的に反映    | 発達をさらに促す支援と関わりについて                            |
| 2                 | 6月24日  | 3歳7か月                     | 15    | カリキュラムや発達検査の記入に反映   | 家庭引き取りに向けて父母に伝えられること、院内で取り組めることについて           |
| 3                 | 7月22日  | 1歳4か月<br>(退所時)            | 13    | —                   | 退所児の愛着形成の過程の振り返り                              |
| 4                 | 9月25日  | 2歳6か月                     | 15    | 11月のカリキュラムに反映       | 里親交流に向けた関わりについて                               |
| 5                 | 10月23日 | 2歳2か月                     | 16    | 11月のカリキュラムに反映       | 遊び込める環境、養育者の援助について・里親委託に向けて                   |
| 6                 | 11月11日 | 3歳3か月                     | 17    | 12月のカリキュラムに反映       | 衝動性のある児の環境調整や関わりの工夫、敏感で不安を感じやすい児への対応、里親委託に向けて |
| 7                 | 12月16日 | 1歳1か月<br>(修正月齢)<br>0歳11か月 | 14    | カリキュラムに反映           | 担当者と情緒的な関わりを検討する。また里親委託に向けて                   |
| 8                 | 1月20日  | 1歳10か月                    | 14    | 2月のカリキュラムに反映        | 担当者と関係を深めていくための関わりについて                        |

表I-2 アートプログラム・おはなしの会・ダンスプログラムの実施状況

※ 8月のおはなしの会は台風のため中止、9月のダンスプログラム、12月のアートプログラムは講師の体調不良等で中止

| 実施年度  | アートプログラム実施回数 | おはなしの会実施回数 | ダンスプログラム実施回数 |
|-------|--------------|------------|--------------|
| 令和6年度 | 11回          | 11回        | 11回          |

のための評価を行うため、養育部門の職員もプログラムの振り返りを実施した。

#### **(6) 学童保育での遊びのプログラムの企画・運営**

令和6年度より、母子生活支援施設の学童保育にて、子どもの育ちを保障するための遊びの風土づくりを目指し、心理職による遊びのプログラムの企画を始めた。

上半期は学童への参与観察を非常勤心理職3名で13回行った。子どもたちの様子や集団づくりの課題といった参与観察の結果を職員にフィードバックした。2月には、それらの結果を踏まえて構成的エンカウンターに基づくプログラムを企画し実施した。子どもは計11名参加し、職員からも一定の評価を得られた。

### **II. 白百合心理相談室**

地域貢献の一つとして心理相談のニーズに応える目的で開室している。今年度は、里親、家庭支援として、フォローアップのための相談を無料で行う試みや、NPO ドナーリンクジャパンへの協力として、必要なカウンセリングに応じる試みを開始した。ドナーリンクジャパンを通しては、AID（非配偶者間精子提供）に関連するオンラインカウンセリングも実施した。

今年度は親子並行面接を1ケース行った。また、ホームページより、地域の親子の相談も申し込みが3ケースあった。そのうち2ケースは、所長が対応し、今後の子育ての道筋が見えたことで、初回面接で終了した。1ケースは継続面接を予定している。

### **III. 支援者支援**

乳児院白百合ベビーホームと母子生活支援施設白百合パークハイムの心理職が、現行のケースや心理専門活動全般について、所長にスーパーヴァイズを受ける体制が構築されている。今年度は、白百合ベビーホームは主に入所児アセスメントについて、白百合パークハイムは心理職それぞれの担当ケース2件や学童プログラム実施について助言を受けた。

継続的かつ複数回のグループスーパービジョンに応じている団体は、八王子市社会福祉協議会主催の学童保育所施設長研修、鎌倉市教育委員会、相模原市教育委員会、座間市保育士園長会、横浜市子育て広場などである。これらの団体にスーパーヴァイザーとして所長が招聘されている。

保育コンサルテーションは、旭区の公立保育園、八王子市、相模原市、茨城県の私立保育園などである。研究員らが巡回に応じている。また東京都の母子保健事業に協力し、新島・式根島の巡回相談を所長が実施した。

### **IV. 心理・社会福祉に関する学術誌等の刊行**

令和6年度にVol.2の刊行準備を整えた。

### **V. 心理・社会福祉に関する専門研修の企画・運営**

#### **(1) 障害児への発達促進プログラムの企画・運営**

乳児院の障害児の割合が増えている現状を受け、障害児への発達促進プログラムをカリキュラム

表V-1 発達促進プログラム実施状況

|            | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計   |
|------------|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 認知発達支援     | 3  | 9  | 6  | 10  | 8   | 8   | 7  | 6  | 6  | 63回 |
| 運動・プレイセラピー |    |    |    | 7   | 6   | 6   | 3  | 3  | 5  | 30回 |

に導入し、白百合ベビーホームを中心に実践している。入所中の児の発達の伸び具合を確認し、伸びが緩やかな児には詳細なアセスメントを行い個別支援につなげた。その中で、発達促進を試み、それを生活に還元するサイクルを試みた。(表V-1)

令和6年度は、療育的な発達促進支援の必要がある児の個別支援を実施した。

## (2) 乳児院の保育力向上に資する研修の実施

保育の質向上委員会にて、検討会を12回実施するなど、保育力向上に向けて実践を積み重ねている。(表V-2)

特に今年度は、所長の提案により、各年齢に応じた体験を保障できるよう、個々の力を伸ばす遊び等の検討を試みた。特に、ユニット単位の生活ではものたりなさを感じる年長児の生活の見直しを行い、ユニットを超えて年長児らしい生活を送るための院内の連携についてサポートを行った。緑日の企画の際にも、年長児の経験の保証を試みたサマータイムグループと連携をし、年長児らしく緑日のお店やさん側を経験するという参加形式を計画し、実施した。

## (3) アタッチメントに係る研修会の企画・運営

令和4年度から3か年にかけて「アタッチメント理論を勉強する会～Cornerstones of attachment researchの講読」と題して、月1回2時間のオンライン研修会を運営してきた。今年度も継続実施しており、12月に全章の講読を終え、終了した。

## (4) 保育の専門家を中心とした子ども・家庭理解を深める研修の実施

今年度は、八王子市立保育園協会と所長との協働で10年以上継続されてきた対面形式での保育フォーラムが完全に復活し、年3回で実施した。

福岡市保育士協会からの業務委託では、令和6年2月から4月にかけて気になる子どものアンケート調査を行い、得られた51件の回答から分析を行った。得られたデータ全体の傾向を分析しまとめた資料のほか、個別のケースについて結果のフィードバック資料を作成した。51ケースの中から、福岡市保育士協会が選定した2事例については、事例検討会が行われた。

## (5) 心理教育講座の開催

今年度10月からの実施を目指し、親子のひろばにこにこパークと連携し、前期は計画を立て、参加者募集を始めた。その結果4組の参加希望の応募があり、実施した。

表V-2 保育の質向上委員会の活動内容

| No. | 日程  | 内容                                                                                                      |
|-----|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 4月  | 4月のユニットの状況について。アフターコロナにおける子どもたちの生活の見直しについて。5月の手遊び歌・遊び・歌・絵本、各種プログラムの予定について。一年間の重点課題について。外部講師プログラムの担当について |
| 2   | 5月  | 5月のユニットの状況について。6月の手遊び歌・遊び・歌・絵本、各種プログラムの予定について。遊びの記録のつけ方について。委員会を中心に行う製作の検討                              |
| 3   | 6月  | 6月のユニットの状況について。7月の手遊び歌・遊び・歌・絵本、各種プログラムの予定について。個々の力を伸ばす遊びの検討                                             |
| 4   | 7月  | 7月のユニットの状況について。8月の手遊び歌・遊び・歌・絵本、各種プログラムの予定について。夏の遊びについて。縁日について                                           |
| 5   | 8月  | 8月のユニットの状況について。9月の手遊び歌・遊び・歌・絵本、各種プログラムの予定について。縁日に向けて。個々の力を伸ばす援助について                                     |
| 6   | 9月  | 書面会議。10月の手遊び歌・遊び・歌・絵本、各種プログラムの予定について。縁日振り返り。前期振り返り。個々の力を伸ばす援助について。2歳児の保育について                            |
| 7   | 10月 | 10月のユニットの状況について。11月の手遊び歌・遊び・歌・絵本、各種プログラムの予定について。2歳児の遊びについて                                              |
| 8   | 11月 | 11月のユニットの状況について。12月の手遊び歌・遊び・歌・絵本、各種プログラムの予定について。2歳児の遊びについて。段ボール遊びについて。クリスマスの遊びについて。                     |
| 9   | 12月 | 12月のユニットの状況について。1月の手遊び歌・遊び・歌・絵本、各種プログラムの予定について。次年度の絵本の選定について。クリスマス会に向けて                                 |
| 10  | 1月  | 令和6年度の振り返りと次年度の計画策定に向けて                                                                                 |
| 11  | 2月  | 2月のユニットの状況について。3月の手遊び歌・遊び・歌・絵本、各種プログラムの予定について。次年度の絵本の選定について。次年度の遊びについて。今年度の振り返り                         |
| 12  | 3月  | 3月のユニットの状況について。4月の手遊び歌・遊び・歌・絵本、各種プログラムの予定について。アルバム作成について。1年の振り返り                                        |

## VI. 上記以外の研究所の活動

### （1）子育て世帯等に対する包括的な支援体制づくりに向けたコンサルティング業務委託

相模原市で取り組む子育て世帯等に対する包括的な支援のための連携の仕組みについて、各種会議、専門職の業務等について現状を把握し、体制強化を図るために必要な課題を抽出することを令和5年度に行い、令和5年度末に『令和5年度 相模原市子育て世帯等に対する包括的な支援のための体制強化に向けたコンサルティング業務委託事業 報告書』を提出した。令和5年度の調査結果を基に、令和6年度は、新たに設置される「こども家庭センター」が、市内の様々な子育て世帯に必要な支援を適切に届けるために、地域の社会資源に着目し、検討することを行った。

令和6年度は、関係各所との打ち合わせはヒアリング調査や研修会に向けて7回実施した。（表VI-1）

また、私立保育園へのヒアリングを実施するにあたり、私立保育園園長会にてヒアリングの趣旨説明もこども家庭課・保育課と共に実施した。（表IV-2）

ヒアリング調査は6回8か所にわたって実施した。（表VI-3）

前期は、6月に中央子育て支援センターの母子保健班・こども家庭支援班の2部署には子育て支援における地域資源等に着目し、7月には公立保育園の園長会、私立保育園の園長会に対して公的



表Ⅵ-1 相模原市関係各所との打ち合わせ

| No. | 日程     | 打ち合わせ内容                 |
|-----|--------|-------------------------|
| 1   | 4月18日  | 第1回：今後の方向性について          |
| 2   | 5月8日   | 第2回：研修会について             |
| 3   | 5月22日  | 第3回：企画書等提出・ヒアリング先について   |
| 4   | 5月27日  | 第4回：ヒアリング日程調整 (Zoom)    |
| 5   | 10月2日  | 第5回：後期に向けて              |
| 6   | 12月24日 | 第6回：研修会について (Zoom)      |
| 7   | 3月4日   | 第7回：報告書のまとめ方について (Zoom) |

表Ⅵ-3 相模原市関係各所ヒアリング実施場所

| No. | 日程     | 打ち合わせ内容               |
|-----|--------|-----------------------|
| 1   | 6月26日  | 中央子育て支援センター（こども家庭支援班） |
| 2   |        | 中央子育て支援センター（母子保健班）    |
| 3   | 7月3日   | 公立保育園                 |
| 4   |        | 私立保育園                 |
| 5   | 10月28日 | 児童相談所                 |
| 6   | 11月8日  | 社会福祉協議会               |
| 7   | 11月25日 | 子育て支援センター（療育相談班）      |
| 8   | 12月10日 | 青少年相談センター             |

表Ⅵ-2 ヒアリング趣旨説明

| No. | 日程    | 内容            |
|-----|-------|---------------|
| 1   | 6月10日 | 私立保育園園長会 趣旨説明 |

な子育て支援とのつながりや地域との連携に着目しながらヒアリング調査を実施した。後期は、10月に児童相談所、11月には社会福祉協議会、子育て支援センター療育相談班、12月には青少年相談センターのヒアリング調査を実施した。いずれも実施したヒアリング内容はサマリーを作成した。

また、令和5年度同様に令和6年度は、こども家庭庁支援局家庭福祉課企画調整官兼課長補佐の胡内敦司氏を招き「改正児童福祉法による取組の推進～こども家庭センター設置に向けて～」の研修会を5月10日と1月6日に実施した。

前期は中央子育て支援センターと保育園を中心にヒアリング調査を実施し、後期は児童相談所、社会福祉協議会、子育て支援センター（療育相談班）、青少年相談センターと、こども家庭センター設置に向けて、連携先として重要となる関係各所へのヒアリングを行った。

また、後期も胡内氏を招いての研修を実施してほしいとの声が相模原市より上がっていたことから、1月に2度目の研修を行った。2度目の研修では、相模原市内の保育園の職員も多く、総勢79名が参加した。

ヒアリング、研修がすべて終了した後、ヒアリングごとに作成したサマリーの内容を基に、報告書の作成を行い、令和6年度末に『令和6年度 相模原市子育て世帯等に対する包括的な支援のための体制強化に向けたコンサルティング業務委託事業 報告書』を提出した。

ヒアリングと研修の実施自体が、相模原市内の連携先と市の連携の促進につながった。特に公立・私立保育園のヒアリングの実施が、第2回目の研修に園も共に参加することにつながり、連携の土台づくりにつながった。

## (2) 業務全般のマニュアル化と改訂

今年度も昨年度同様、当法人のWEB上での会議への出欠席登録、及び会議での感想登録のシステムを整備・実施した。また、保育フォーラムのアンケートの集計も当法人のWEB上で行った。また、ホームページのブログの掲載とともに、ベビーホーム調理部門のおたよりと、ベビーホーム

のおたよりを掲載した。さらに、今年度は興味を持ってアクセスした人が必要な情報にアクセスしやすいよう、ホームページの改善案を所長と共に検討し、改善している最中である。

また、今年度計画していたベビーホームのシステム改善については、ベビーホーム職員と連携しながらシステムの活用状況の洗い出し・改善点の洗い出しを行った。現在、業者との打ち合わせが進行している最中である。

### （3）学会等での発表

上半期は、I-(1) で述べたように、所長が International Attachment Conference にて発表した。また、所長が日本心理臨床学会の大会委員長を務め、所長を筆頭に各研究員も発表を行った。具体的には、口頭発表1件、ポスター発表を2件、自主シンポジウムの企画2件、招聘（所長）7件であった。これまで当研究所発信のプログラムに参加された方の継続参加や、話題提供者として招聘するなど、継続的な成果発信によりつながりが次のプログラムを豊かにする機会になってきている。

また、計画していたコロナ禍の子どもたちの発達についての発表は、真生会の理事会にてベビーホームでの取り組みを報告した後に、外部への発表につなげていく計画へと修正し、準備を進めている。

### （4）定期ミーティング

月1回研究員全員が集い、各プロジェクトの進行状況等を確認するミーティングを計5回行った。